

# 平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	北広島町立壬生小学校
-----	------------

## 1 学校における食育の現状

千代田ブロックは小学校 5 校・中学校 1 校あり、小学校は単独校方式の給食・中学校は豊平給食センターからのセンター方式の給食を実施している。栄養教諭の配置はブロックに 1 人で、自校のほか小学校 4 校に参考献立を提供し、要請に応じて食に関する指導を行っている。

壬生小学校の児童は、食に対する興味関心はあり、給食では残さず食べる雰囲気はできていて、全体として残菜はない。しかし行動は食の好みに左右されているところがあり、配膳量に個人差がある場合がある。また、給食配膳に時間がかかるため、児童にとって一番身近な給食時間での食育指導時間がとれにくく、食事のマナーは知っているが、あまり実行できていない面もある。

## 2 学校の食育に係る目標

壬生小学校の食育推進目標は「心身の成長や健康の保持増進のための食習慣を理解し実践することのできる子どもの育成」としている。その中で重点目標としては、「好き嫌いを減らし、給食を食べこむことができる」「マナーを守ってみんなで楽しく食事ができる」の 2 つを設定した。

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

### 【取組 1】(テーマ) 日常での食に関する指導について～ぱくぱく通信の取組～

「好き嫌いを減らし、給食を食べこむことができる」に関わる取組として、毎日の給食を題材とした、「ぱくぱく通信」を毎日発行している。好き嫌いをなくすには、その食材や料理に興味をもってもらうことと、具体的な食べ方の指導を重ねて行うことが重要であると考え。また、そのことを毎日継続的に、粘り強く続けることで、子どもたちの成長とともに食べられるようになっていく例も多い。通信の内容は、その日の給食に関わって、栄養価・食材の説明・その日の調理・食文化や健康に関わることなどの中から、子どもたちの興味をもちそうなテーマを選んで取り上げるようにしている。クイズを取り入れることで子どもたちも興味をもって参加している。担任に読んでもらうことで、職員の給食に対する意識の啓発にもつなげている。

### 【取組 2】(テーマ) 朝食内容の改善について～生活習慣チェック週間の取組～

子どもたちの成長に重要な役割を持つ朝食について、壬生小学校「生活習慣チェック週間」に取り組んでいる。具体的には、毎学期 1 週間の重点期間を決め、起床・就寝時間やテレビの時間などを記録している。その項目の中に、朝食を食べたかどうかと具体的な内容(食材)も「赤・黄・緑」に合わせて書き込むようにしている。チェック週間の前には養護教諭と連携し、3色の食べ物をそろえる大切さについて全校朝会での指導を行った。

### 【取組3】(テーマ) 千代田ブロックでの取組～まめマメ通信・給食一口メモ～

参考献立を出している千代田ブロックの小学校へ、日常での食育に生かせるよう、資料を毎月2種類出している。「まめマメ通信」は各校の給食だよりの元になっているもので、毎月の健康や食のトピックスとともに、今年度給食実施に取り組んだ郷土料理のレシピや料理の紹介をした。各学校で自由に使える資料として、活用してもらっている。「給食一口メモ」は、給食時の放送原稿として各学校で使っている。実際に献立を立てた栄養教諭として、その献立の思いや食に関する情報を伝えるようにしている。

また、要請に応じてブロック内の小学校へ食育指導にもTTで参加している。T1になる職員と事前に連携し、その授業を通して伝えたいことや身につけたい力を共通認識して授業を行っている。

## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

今年度の5品目について、北広島町調理員研修会で調理研修を行い、栄養教諭・調理員双方でレシピを確認して10月を迎えた。最優秀メニューの「ひろしまオールスター☆坦々丼」にあわせ、地場産物(トマト・ゆかり・キャベツ・小松菜)を取り入れた献立を北広島町統一メニューとして実施した(ひろしまオールスター☆坦々丼・トマトと卵のスープ・ゆかりあえ・牛乳)。また、実施当日はこのプロジェクトの意義や献立についての説明を「ぱくぱく通信」に載せ、各クラスで担任が読み、啓発とした。



## 5 取組に対する成果と課題

### 【成果】

- ・「ぱくぱく通信」に取り組むことで、児童の給食への興味関心が持続しており、そのことが、「苦手でも食べる」意欲につながる一つの手立てになっている。日常の声かけと合わせることで、残菜の減少につながった。
- ・ブロックに資料提供することで、献立にこめた思いを他校に伝えることができた。

### 【課題】

- ・3食そろった朝ごはんを食べる児童の割合が、昨年度に比べて下がっており、指導方法の工夫が必要。
- ・学校給食の取組を、給食時間に児童に紹介することで終わっていることが多いので、そこから発展して家庭の啓発につなげる取組が必要だと感じる。

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

学校給食の取組を食育につなげるようにしているが、食生活に関して、児童生徒の目に見える変容にはなかなか結びついていない。家庭への啓発についても、今後は取り組む必要があると感じる。